

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	杜の風 いろ葉			
○保護者評価実施期間	令和7年10月15日 ～ 令和7年10月27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日 ～ 令和7年10月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの状態を的確に捉える“高度な観察力”	・子どもの微細な表情・行動・感情の変化を丁寧に拾い、日々の支援に反映している ・職員間で観察ポイントを共有し、主観ではなく“事実ベース”での支援を徹底 ・気になる行動があった際は、即時に記録し、保護者へも丁寧に説明できる体制を整備	・観察項目の標準化（チェックリスト化） ・新人職員向けの「観察トレーニング」導入 ・行動記録を蓄積し、個別支援計画の改善サイクルに活用
2	保護者との信頼関係を重視した“丁寧なコミュニケーション”	・日々の連絡・報告で、子どもの様子を“その子らしさ”が伝わる言葉で丁寧に記述 ・保護者の不安や疑問に対し、即時かつ誠実に対応 ・相談しやすい雰囲気づくりを意識し、保護者の声を支援に反映	・保護者アンケートの定期実施と改善サイクル化 ・個別面談の質向上（事前ヒアリングシートの導入など） ・保護者向けミニ講座や交流会の開催
3	職員の成長を支える“温かく、建設的な職場文化”	・ミスやトラブルを責めず、改善に向けた対話を重視 ・職員の意見を尊重し、業務改善に反映 ・子ども中心の視点を共有し、支援の質を揃える努力を継続	・OJTマニュアル・研修記録の整備 ・定期的なケース検討会の開催 ・スタッフのメンタルケア・働きやすさチェックの導入
4	安全管理・危機対応の意識が高い	・事故・ヒヤリハットを丁寧に記録し、再発防止策を即時に共有 ・保護者への説明も誠実・迅速に行い、信頼を損なわない対応を徹底 ・子どもの特性に応じたリスク予測を行い、環境調整を実施	・危機管理マニュアルの定期更新 ・年数回の安全研修・避難訓練の実施 ・ヒヤリハットの分析会を開催し、組織的に改善

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有が属人的になりやすい	・観察力が高い職員に情報が集中しやすい ・記録のフォーマットが統一されていない ・忙しい時間帯に口頭での共有が増え、抜け漏れが発生しやすい	・情報共有フォーマットの統一（チェックリスト・日誌） ・申し送りの時間を固定化 ・ICTツールの活用（可能な範囲で）
2	個別支援計画の“見直しサイクル”が十分に回りきらない	・日々の支援に追われ、計画の振り返りが後回しになりがち ・記録はあるが、分析に時間を割けない ・職員全員が計画の意図を共有できていない	・月1回の「計画振り返りミーティング」設定 ・記録の分析テンプレート化 ・計画の目標を“職員全員が理解できる言葉”に翻訳して共有
3	新人職員の育成に時間がかかる	・子どもの特性理解や観察力が求められるため、習得に時間が必要 ・マニュアルが暗黙知に依存している部分がある ・ベテラン職員の負担が大きくなりやすい	・新人向け「30日育成プログラム」の作成 ・観察ポイントの可視化 ・ロールプレイ研修の導入
4	行政書類・記録業務の負担が大きい	・丁寧に記録を重視しているため、時間がかかる ・書類のフォーマットが複雑 ・職員の得意・不得意により作業量が偏る	・記録テンプレートの簡素化 ・書類作成の役割分担の見直し ・書類作成時間を業務内で確保する仕組みづくり